

## 会議結果報告書

令和6年11月22日

会議の名称	令和6年度 第4回舞鶴市社会教育委員会議	
種別	<input checked="" type="checkbox"/> 附属機関 <input type="checkbox"/> 懇話会等	
開催日時	令和6年 11月 21日 (木) 13時30分 ~ 16時10分	
開催場所	舞鶴市城南会館 ホール	
出席者	社会教育委員 7名 生涯学習推進課長、事務局 (2名)	
議題	委員の事例発表 (波多野委員) 協議内容 (1) 城南会館から概要説明 ・ 事業を進める中での事業や人材育成の現状及び課題について (2) 意見交換	
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	
	<input type="checkbox"/> 部分公開	[理由]
傍聴者数	0名	
審議結果及び主な意見等	2回に渡って行った公民館の事業における事業や人材育成の現状及び課題の意見交換した内容をまとめ、次回の会議にてより深めるための協議を行う。	
会議録の作成様式	<input checked="" type="checkbox"/> 詳細 <input type="checkbox"/> 要約	
備考		

担当課	舞鶴市 生涯学習部 生涯学習推進課 TEL (0773)68-9223
-----	--

## 令和6年度第4回社会教育委員会議事録

### 第4回社会教育委員会議事概要

○開催日時 令和6年11月21日(木) 13時30分～16時30分

○開催場所 舞鶴市城南会館

○出席委員 江上委員、田中委員、谷口副会長、波多野委員、福原会長、

吉岡委員、渡辺委員

○事務局等 村尾課長、森野係長、山本

### 1. 挨拶

→福原会長より挨拶

### 2. 議題

#### (1) 委員の事例発表

→波多野委員より発表

地域に支えられながら、学校における事業(運動会、敬老会、地域のお祭り、授業の講師)を行ってきたが、コロナにより参観日がなくなるなど、大きな変化があった。地域の方の手も借りれなくなった。コロナ終息後も様々な課題により、事業を復活できない状態にあり、事業を見直すき転換点になった。

学校では、出前授業で市や京大水産研究所、地域の方に来ていただいて実施している。例えば、アサギマダラ学習会、福井小自然体験隊、地域の歴史を調べる学習、まち探検、ふるさとの様子を知る学習、お茶クラブやアートクラブなどのクラブ活動、見守りボランティアなど、地域の方に協力いただいている。

コロナ収束後、地域連携の過渡期にきているが、地域連携には相応の時間と労力が必要。

地域の中心の方が高齢化しており、継続が困難になる中心的人物がいないこともあり、組織的に取組を進める力が衰退している。学校全体の働き方改革もある。なんとか続けられる形で継続したいと思っている。

(江上委員)

取組を担う先生は、どれくらい地域の人脈があるのか

(波多野委員)

一番の課題である。京都北部の配属になり、やめる人もいる。南部出身でも、コミュニティづくりが好きな人もいる。地域の方とどれくらい話ができるかが大切であるが、コロナ過でコミュニティづくりができず、収束後に先生として取り組むことが難しい。学校として取組を進めるので、若い先生が地域の人と話す機会がない。コミュニティづくりに対して魅力を感じない先生が多い。

(江上委員)

自分自身、福知山に配属されたとき、最初のハードルは高かったが、それを乗り越えると意外とできる。若い先生の最初のハードルを取り除いてあげることを社会教育として支援ができないかと考える。

(渡辺委員)

学校運営協議会と地域との連携が大きいと考える。学校と地域のつながりをつくるために何か工夫をしているか

(波多野)

先生には地域の人と会えば元気に挨拶をするよう言っている。お願いをすると協力してくれる地域の人は多いので、関係を築くことの大切さは先生に伝えている。若い先生にはずみをつけてあげることが大切。

(吉岡委員)

若い先生の中に頭の中で考えて終わりになる先生が多いので、一步踏み出せるようにするための支援はどのようにされているか。また、小中連携はどのようにしているのか。今後どれぐらいの学生同士の外部連携を見込んでいるのか。

(波多野委員)

弾みをつかせるために、地域の人のところにはまず行くように機会を作っている。小中連携は6年生が城北の文化祭に参加したり、クラブ活動に参加している。中学校に行くと授業も受けている。中学校に地域の人に来られる際に参加し、交流するようにしている。

(田中委員)

後継者不足の中で、特に文科系は顕著に人材不足である。クラブ活動でお茶や花をやっていただけるとは嬉しい。文化協会としては学校に出向いて思いを伝えることが大切だと思っている。クラブ活動の講師の方はどういうきっかけで行くようになったのか。

(波多野委員)

お茶の先生は元学校の先生。花の先生は学校に花を飾っている方。アートクラブは保護者の方。理科の先生は元教員。何かしたいとなったときには、その道の長い人に紹介してもらっている

(谷口副会長)

子どもが聞いてきたことで福井の歴史を知った。子どもを通じて大人も学べる。子育ての中でもコロナ過でママ同士のつながりがないまま今を迎えている人が多い。保護者の中でコロナにより変わった点があるか。

(波多野委員)

子ども達も保護者もマスク生活ばかりなので顔が分からない。教員の中でも教育実習をできない人もいて、いきなり現場に出てしまい、やめる方もいる。コロナ過に多感な時期を迎えた子でマスクを外せないなど、影響が大きい。

(福原会長)

自分も運営協議会に携わっていて、学校と地域で子どもを育てる大切さを学んだ。元は地域が反対的だったのが今では地域の方が熱心で良い取り組みであると考えている。昔に比べて学校に入る敷居は下がったが、学校の立場で地域との関係性はどうか考えているか。

(波多野委員)

地域と取り組む良い部分として、子どものためになると動きが速い。子ども達には簡単な言葉で説明しないといけないが、講師の方にそれをお願いするのが難しい。

～ 休憩 ～

### 3. 協議内容

#### (1) 城南会館から公民館事業や人材育成について説明 →西野館長より説明

(西野館長)

城南会館は、今年で20年目。舞鶴市で木造の公民館は、こちらのみ。

公民館運営協議会は、13名(男7名、女6名)。自治連会長、各小学校及び中学校のPTAを実施。3人体制で、運営。定期講座、自主事業の企画実施、公民館的な業務以外にも、市民課の住民票や戸籍謄本の交付、税務課の市民税や固定資産税の市税の収納、保険料の収納、上下水道料の支払い等、多岐にわたる業務を行っている。

城南会館は、中心から外れているので、人が集まりにくい傾向にある。事業としては、定期講座の他、自主事業は、現役世代が参加しやすいように土曜日等に実施し、令和5年度は12事業を実施している。城南会館の運営協議会の実施事業として、流しそうめんや竹とんぼの城南キャンプ、餅つき等を運営協議会委員に関わってもらい実施している。多文化共生の視点の事業や、地域課題解決型の放置竹林の竹から作るメンマ作り、酒のつまみ作り等、他の公民館にはないような事業を実施していると考えている。また、自分がよいと思った企画が思う程参加者が集まらなかった経験もあり、ニーズに応じた事業、講師からの持ち込み企画も大切にしている。

事業を実施するに当たり、参考になったのは高浜町の和田公民館への視察で、カルチャースクールであるという和田の館長の言葉で事業実施する上で吹っ切れるきっかけとなった。

(江上委員)

館長としての仕事と、今までの役所生活とは違う点は何か。

(西野館長)

市役所では予算や会計等数字にかかわることばかりだったので、最初は知識もなく、戸惑った。三振空振りでもいいから事業してよと言われてたが、講師とのつながりがなかったが、1~2年事業を続けると、知り合いを紹介してもらったり話が広がりだした。今は、なんとかやれる形で実施し、その次で話を広げようという考えになった。

(江上委員)

城南会館が評価されている要因は何かと思うか。

(西野館長)

自分が楽しむようにしている。講師には地元の方や会館利用者の団体の方にさせていただくようにしている。外部の方だとしても一度お会いして人間性を見るようにしている。

(田中委員)

感想になるが、公民館ちょっとコンサートでは、城南でやりたいという演者が増えているのは館長の人柄だと思う。他の館にも運営会議はあるのか。

(西野館長)

他の公民館にもあると思うが、城南会館が一番活発だと思う。ちょっとコンサートからヒントをいただき、ちょっとギャラリーをロビーにしている。

(村尾課長)

6公民館には運営会議があるが、まなびあむにはない。

(波多野委員)

自分も西公民館の委員をしているが、報告が多い。自分も地元の城南会館を利用していた。BBQもできる施設があるが、建物を維持管理するのが大変だと思う。

(西野館長)

施設管理は大変である。草刈りも職員で実施しているが、芝生の維持管理は利用者にも手伝ってもらっている。自発的にお手伝いいただける場合にはお願いすることとしている。

(吉岡委員)

笑顔でやっておられるのが印象的である。公民館職員が自走するためにはどうしているのか。

(西野館長)

3人体制で実施しているので、休まれると大変。自分が健康で家族が健康、次に仕事だと言っている。肉体的にも精神的にも負担がかからないようにしている。事業をするネタ帳に書き留めている。まなびあむの東高のスマホ事業がよい事業と考えており、したいと考えている。

(吉岡委員)

日星高校も地域に出ていきたいと考えているので、スマホ事業をぜひ実施したい。

(西野館長)

ぜひよろしくお願ひしたい。

(渡辺委員)

運営会議を今の形にするまでの苦勞は。また、事業の広報はどこに向けて行っているのか。

(西野館長)

運営官妓の設立当時をもっと活発だった。周囲の梅で梅づくりを実施したりしていたので、縮小傾向にある。運営員が当て職の方もおられ、理解した頃に替わることが課題である。広報は市内全体に向けている。本来なら校区内の人に来てほしいが、それだけでは人が集まらない場合は、他の館にチラシを置いてもらったりしている。

(谷口副会長)

館長が就任当初、理不尽な要求に対して一緒に頭を下げていただいた。良い思いを共有することも大事だが、悪いことを共有するのも大事かなと思う。館長のより良くとらえる価値観も良い印象を与えらると思う。先日も事業のお願いをしていただいたが、トークフォークダンスを実施した。つながりがあるからそういう話ができるし、そんな話を楽しくとらえることが大事。そういう感性があることが重要と思う。そういったことが頼める、どういふとらえるかという感性が必要。その辺を深掘りして話してほしい。

(西野館長)

もともと楽しいことが好きなタイプで、難しいことは得意分野な人に甘えればよいと思っている。事務員にもそう伝えている。ただ、甘えるだけでなく、一緒に汗を流すようにしている

(谷口副会長)

上手に甘えるスキル、一緒に汗を流せるスキルは元からなのか。

(西野館長)

あまり深く考えたことがない。平田オリザさんの話を聞いたときに、昔はだれかがほめてくれたり怒ってくれたりした。今はそれがない。自分も昔、地域の人とかかわりが多かった。地域で子どもを見守る大切さを感じている。

(谷口副会長)

城南会館みたいにと言われることが多い中で、現場に残っている人に対して、何が尊敬されているのか。どうなればよいのかを伝えてほしい。

(西野館長)

職員にも稼働や交流を得てほしいと思うが、運営に手をとられて、人数的に厳しいところがある。

(江上委員)

人員配置としてこういうシステムがあれば良いというのがあるか。

(西野館長)

来年度の事業はだいたい予定しており、その事業を通じてつながりを作ってほしいと思っている。人数的にもう一人いれば、自分がサポートしながら、次の館長を育てることができる

(江上委員)

研修の機会はどうか

(西野館長)

視察や大会に参加することで、いろんな事例を知ることができ、考え方としては参考になった。初年度は、どうしたらよいかわからなかったが、とりあえずやってみた。そこで気づいたことを取り込んでいった。

(福原会長)

館長の人柄と城南会館特有の設備（芝生とホール）が相まって良い印象を与えているのではないかと思う。まずは自分がやってみるといところで共感した。今後は、全館の館長補佐としていていただけたらと思う。これにて終了とする。